

青「その前より元目録本」アイも」
燈「あれは全滞費へ対対の人を困る」

と」

青「千四百萬圓あるアありませぬはあれは同船就出出来さへい」
燈「台島脚對種金を辨替へるころは出来るよ」

青「余がある善アありませぬは謝立金を辨替へはれませぬ」
燈「取田お見識本」ア手當も辨當の事アありませぬ」

燈「真の面目お見識本」ア手當も辨當の事アありませぬ」
青「辨當するころは手當も辨當の事アありませぬ」

燈「不景展の元目録本」ア手當も辨當の事アありませぬ」
青「おそれありませぬ」

燈「行方不明全滞の」ア手當も辨當の事アありませぬ」
青「おそれありませぬ」

燈「おそれありませぬ」

財團法人協調會大阪支所

松「元目は何人もない」

平「一度に發表すればストライキに成るからやらないのでせう、日
永の間二十人十人と減る中には三時頃迄仕事をして減る事も
あります」

松「御注告は有難う今後は眞の意け者を減る様にするよ揭示に出し
て置かう」

平「此頃は貴方を信用する者は一人もありません何時迄も貴方には
欺されて居られない」

燈「揭示々々つて云ふが誰も揭示なんか見るものはありません私が
居る時からフン又かと見向きもしませんでした」

松「君達から見る様に勸告して呉れればよかつたに」
青「大正八年の怠業の時々の要求書を見て貴方は上に厚く下に薄い

からいかぬと云つたそつたそつたが賞與は如何です此期も拾七萬圓
も取つてその内半分は貴方が獨りて取るのだそつたそつた